

2024年6月幹事会 企画幹事資料

1. 2024年度 例会の準備状況

① 2024年9月例会

開催日：2024年9月27日（金）13:30～16:30

場所：日本薬学長井記念ホール（東京）現地開催

講演	演題・所属・氏名	備考
一般公演	1) 13:30～14:15 「カロテグラストメチルの臨床薬物相互作用」 EA フーマ株式会社 神山哲哉 先生	済 演題 済 演者 未 ご略歴
	2) 14:15～15:00 「新規消毒剤の申請アプローチ－経皮吸収を中心に－（仮題）」 株式会社大塚製薬工場 栗林 俊治 先生	未 演題 済 演者 未 ご略歴
	15:15～16:15 「バイオ医薬品の非侵襲的経皮デリバリー技術」 九州大学付属 次世代経皮吸収研究センター 後藤 雅宏先生	済 演題 済 演者 未 ご略歴
司会	日本ベーリングーイングルハイム株式会社	

② 2025年1月例会

開催日：2025年1月31日（金）

場所：東京ガーデンパレス（東京）現地開催

一般講演：科研製薬（確認済），小野薬品工業（社内確認中）

特別講演：未定（一般講演の演題に応じて）

2. 2024年度 第47回年会の準備状況

開催日：2024年11月14日（木）～15日（金）

場所：オークラクトシティホテル浜松

事務局・担当幹事：岸本・伴野（日本ベーリングー），小森・永易 常任幹事

① プログラム案

テーマ：サイトーシスと中高分子薬の膜輸送

趣旨：細胞内外の物質輸送を担うサイトーシス研究が進んでおり、その機構や担体も解明されつつあ

る。サイトーシス機構を利用することで、膜透過性の高くない中高分子薬をターゲット細胞に届けることも可能となる。本テーマでは、サイトーシスの最新知見を学ぶとともに、中高分子薬のターゲティングや膜透過に関する理解を深めることを目的としたい。また、パネルディスカッションにおいては中高分子創薬における薬物動態上のハードルについて議論するとともに、それらのハードル克服のためのサイトーシス等の膜輸送機構の有用性・可能性について議論したい。

組織委員：井上勝央 先生（東京薬科大学），近藤昌夫 先生（大阪大学），尾関和久 先生（中外製薬），小森高文 先生（エーザイ/常任幹事）

プログラム：

	所属	お名前	講演内容（組織委員案）	状況
基調講演	京都大学	二木史郎 先生	エンドサイトーシスの機構、膜透過ペプチドなどの細胞内移行に関する研究	内諾済み
一般公演	東京薬科大学	井上勝央 先生	ADCとトランスポーターに関して	内諾済み
	JCR フーマ	菌田啓之 先生	J-Brain cargo の開発に関して	内諾済み
	塩野義製薬	tbd 先生	ペプチドから小分子へのリード生成戦略	確認中
	PMDA	真木一茂 先生	バイオ医薬品に関するレギュラトリの視点からのご講演	確認中

テーマ：Special populationでの動態予測

趣旨：年齢、疾患等は薬物動態の変動因子であり、これらの被検者でのPKデータは日々蓄積されてきている。また、該当被験者でのPK変動を引き起こすであろう因子の研究も進んでいる。本テーマでは、それらの最新の知見を包括的に得るとともに、in vitroからの予測や注意すべき点を議論し、医薬品開発を効率的に進めるための一助としたい。

組織委員：千葉康司 先生（横浜薬科大学），三好聰 先生（ファイザーR&D 合同会社），高江誓詞 先生（アステラス製薬），上村尚人 先生（大分大学）

プログラム：

	所属	お名前	講演内容（組織委員案）	状況
特別講演 (WEB)	Washington State Univ.	Assoc. prof. Bhagwat Prasad	PK prediction at special population and in vitro studies to support the prediction	内諾済み
基調講演	慶應義塾大学	谷川原 祐介 先生	肝障害、腎障害、高齢者および小児での薬物動態の特徴、ならびにPopPK/PDを絡め	確認中

			た教育的オーバービュー	
一般公演	東京大学	大野 能之 先生	肝障害時の薬物動態の考え方	確認中
	BMS	辻本 景英 先生	近年の小児医薬品承認品目における 外挿戦略・既存データの利活用事例（PBPK, PKPD など）	確認中
	武蔵野大学	永井 尚美 先生	薬物相互作用・生理機能変化を踏まえた医薬品の投与最適化の評価・予測手法の開発	確認中
	中外製薬	浅野 聰志 先生	腎障害時における薬物動態変動の予測 -インタクトネフロン仮説の導入の必要性-	確認中

② 今後の予定

- 7月上旬 プログラムの最終案の審議（時間・座長等含む）
 7月中旬 講演・座長依頼書の送付
 8月中旬 演題・要旨・キースライド・ご略歴の締め切り
 9月上旬 展示ブースの出展案内
 9月中旬 年会プログラム・ポスター最終化（幹事会にて）
 9月下旬 年会案内・参加募集

③ 必要経費

所属（官学と産）による区分：2024年では企業からの一般講演数が過去2年と比較し減少

	2024年 人数		2023年(2024年との差)		2022年(2024年との差)	
	官学	産	官学	産	官学	産
特別講演	1	0	±0	±0	±0	+0
基調講演	2	0	±0	±0	±0	±0
一般講演	4	4	-3	+3	-2	+2
座長	4	3	±0	±0	±0	+1

人数算出にあたっては、談話会幹事・会長は除外

経費：過去2年と比較し最大6万円上昇、消化率は80%（会長講演謝礼、企業以外の特別会員・功労会員・会長の旅費が追加予定）

(万円)	2024年予定		2023年実績		2022年実績	
	官学	産	官学	産	官学	産
謝礼・旅費	41.2	0	33.4	0	36.4	0
宿泊費	9	4	8	7	8	6
計	54.2		48.4		50.4	
予算*（消化率%）	68 (80%)					

*：謝礼（講演・座長）・旅費のみ、参加費は支出とならないため算定外として処理、会長スピーチ費は算定外、旅費は東京 OR 大阪発として仮計算

以上